

枕崎市

災害時フォーミュラリ

【枕崎市の現状】

薩摩半島最南端に位置し、平時からも物流が限られる地域であること

市外に在住している医師、薬剤師が多いこと

災害時には、開院、開局できる医療機関、薬局が限られること

災害時には、上記の医療機関、薬局に普段かかりつけではない地域住民も受診されるケースが想定されること→平時とは異なる処方内容に →本書を参照に処方

令和6年12月 作成

本書の内容は災害時の地域の標準処方医薬品集として列挙したものとなります。

地域災害時支援薬局での常備薬、多くの市内薬局で備蓄されているもの、薬価、文献各種学会の見解等及び枕崎市医師会のご意見を参照に選定したもの（協議済み）をこの災害時フォーミュラリとしております。

本書においては、定期的な見直しを図ると共に行政と共有し、救護所等におけるDMAT及び派遣医師が処方する際の参考としていただくことも想定しております。

●内服薬

災害時フォーミュラリ 医薬品集

地域薬局協議済

【循環器系医薬品】

血圧降下薬	医薬品名	規格	用法	備考
Ca 拮抗薬	アムロジピン OD 錠	2.5mg 5mg 10mg	通常 1 日 1 回	日本フォーミュラリ学会 推奨薬
	ニフェジピン CR 錠	10mg 20mg 40mg	通常 1 日 1 回	
	ニフェジピンカプセル	5mg	頓服としても使用 1 回 10mg 1 日 3 回食後	
ACE 阻害薬	エナラプリル錠	2.5mg 5mg 10mg	通常 1 日 1 回	
	イミダプリル錠	2.5mg 5mg 10mg	通常 1 日 1 回	
AT II 阻害薬	アジルサルタン錠	10mg 20mg 40mg	通常 1 日 1 回	日本フォーミュラリ 学会推奨
	テルミサルタン錠	20mg 40mg 80mg	通常 1 日 1 回	
	カンデサルタン錠	2mg 4mg 8mg 12mg	通常 1 日 1 回	
血圧薬配合剤	ジルムロ配合錠	HD:アゼルニジピン 20mg アムロジピン 5mg	通常 1 日 1 回	31.3 円
		LD:アゼルニジピン 20mg アムロジピン 2.5mg	通常 1 日 1 回	30.7 円
	カムシア配合錠	HD:カンデサルタン 8mg アムロジピン 5mg	通常 1 日 1 回	23.1 円
		LD:カンデサルタン 8mg アムロジピン 2.5mg	通常 1 日 1 回	23.2 円
α1 遮断薬	ドキサゾシン錠	0.5mg 1mg 2mg 4mg	1 日 1 回	
β ブロッカー	アテノロール錠	25mg 50mg 両方 5.9 円	通常 1 日 1 回	Ccr50 以下は減量が必要
	ビソプロロール錠	0.65mg 1.25mg 2.5mg 全規格 10.1 円	通常 1 日 1 回	
α β ブロッカー	カルベジロール錠	12.5mg 10mg 20mg	1 日 1 回 虚血性心疾患又は拡張型心 筋症に基づく慢性心不全は 1 日 2 回	腎機能正常者より少 量から投与を開始
利尿薬	アゾセミド錠	30mg 60mg		
	フロセミド錠	10mg 20mg 40mg		
	スピロノラクトン錠	25mg. 50mg		
低血圧用薬	ミドドリン錠	2mg	1 日 4 m g 1 日 2 回	⚠️ 甲状腺機能亢進症
強心薬	メチルジゴキシン錠	0.05 mg		＝ラニラピッド
冠血管拡張薬	ニコランジル錠	2.5mg 5mg		
	ジルチアゼム徐放カ プセル	100mg 200mg		
	ベラパミル錠	40mg		頓服としても使用
	ニトロペン舌下錠	0.3mg		
抗不整脈薬 I a	ジソピラミドカプセル	50mg 100mg	通常、成人 1 回ジソピラミド として 100mg を 1 日 3 回経 口投与症状により適宜増減	尿閉(抗コリン作用) 注意
	シベンズリン (シベノール)	50mg 100mg		抗コリン作用有 低血糖注意
I b	メキシレチン	50mg 100mg	300mg より開始 分 3	糖尿病性神経障害にも
I c	ピルジカイニド	25mg 50mg	1 回 50mg を 1 日 3 回	
	プロパフェノン	100mg 150mg	1 回 150mg を 1 日 3 回	
III	アミオダロン	50mg 100mg	維持量 1 日 200mg を 1 ～ 2 回	
IV	ベプリコール	50mg 100mg	1 日 2 回	

	医薬品名	規格	用法	備考
抗血小板薬	バイアスピリン錠	100mg	1日1回	5.7円
	クロピドグレル錠	25mg 50mg 75mg	1日1回	25mg : 10.1~16.0円 50mg : 19.1円 75mg : 21.4円/35.0円
抗凝固薬	ワーファリン錠	0.5mg 1mg 5mg	1日1回	0.5mg・1mg : 9.8円 5mg : 10.1円
	リバーロキサバン錠 (イグザレルト)	2.5mg 10mg 15mg 114.4円、 342.9円 476.4円	1日1回 肝臓への影響あり 中等度以上肝障害は禁忌	15≤Ccr<30 10mg分1 慎重 投与 Ccr<15 禁忌
	アピキサバン (エリキュース)	2.5mg 5mg 117.5円 212.3円	1日2回 80歳以上、 60kg、Ccr1.5以上は減量	Ccr≤15は禁忌
	エドキサバン錠 (リクシアナ)	15mg 30mg 60mg 224.7円 411.3円 416.8円	1日1回	Ccr10~50:15mg 分1 Ccr<10 禁忌
		体重60kg以下は30mg		

シロスタゾールは動悸、頻脈の観点より、災害時の新規処方では不向きと判断
腎排泄の割合は、イグザレルト：65% エリキュース：20%

【消化器系医薬品】

PPI	ランソプラゾール OD 錠	15mg 30mg	薬価：12.4円 20.8円	腎機能への影響はなし 日本フォーミュラ学会 推奨薬
	エソメプラゾール	10mg 20mg	薬価：24.0円 41.8円	
H2 ブロッカー	ファモチジン OD 錠	10mg 20mg 双方ともに 10.1円	1日20~40mg 1日1~2回※	Ccr≥50:40mg/日 Ccr10~50:20mg/日 Ccr≤10:10mg分1
消化管機能 改善薬	ドンペリドン錠	5mg 10mg	1日3回 食前	腎機能影響なし
	モサプリド錠	5mg	1日3回食前又は食後	腎機能影響なし
胃炎・胃粘膜 保護薬	レバミピド錠	100mg	1日3回 食後	腎機能影響なし
消化管内 ガス排除薬	ジメチコン錠	40mg 80mg	1日120~240mg 食後又は食間の3回	
鎮痙薬	ブチルスコポラミン錠	10mg	1回10~20mg 分3~5	頓服としても使用
整腸薬	ミヤBM錠		1日3回 食後	
	ミヤBM散		1日3回 食後	
緩下剤	酸化マグネシウム錠	250mg 330mg 500mg		
下剤	センノシド錠	12mg		
止瀉薬	ロペラミドカプセル			

【消化器系医薬品その他】

肝臓・胆のう	ウルソデオキシコール酸錠	50mg 100mg	1日3回 食後	
	カモスタット錠	100mg	1日3回 食前	
結石溶解薬	ウロカルン配合錠	225mg	1日3回 1回2錠	

【高脂血症・高 TG 血症治療薬】

地域薬局協議済

HMG-CoA 阻害薬	ロスバスタチン Ca 錠 日本フォーミュラ学会推奨薬	2.5mg 5mg	1 日 1 回	Ccr 30 mL/分未満では 2.5 mg より開始, 最大 5 mg 分 1
フィブラート系	ベザフィブラート SR 錠	200mg	1 日 1～2 回	Cr 2.0 mg/dL 以上は禁忌
	エゼチミブ錠	10mg	1 日 1 回	

【糖尿病治療薬】

S U 剤	グリメピリド錠	0.5mg 1mg 3mg	1 日 0.5～1mg より開始 1 日 1～2 回	重度腎障害は禁忌 透析患者 NG
ビグアナイド 系	メトホルミン錠	250mg 500mg	500～2,250 mg 分 2～3 食後	Ccr<45 750mg まで Ccr<30 禁忌 透析患者 OK
α グルコシダーゼ阻害薬	ボグリボース OD 錠 日本フォーミュラ学会推奨薬	0.2mg 0.3mg	1 日 3 回 食直前	透析患者 NG ミグリトール OK
DPP-4 阻害薬	トラゼンタ 日本フォーミュラ学会推奨薬	5mg	1 日 1 回	AUC がやや上昇するが腎機能正常者と同じ 腎肝影響無
速効性インスリン分泌促進薬	レパグリニド 安価 日本フォーミュラ学会推奨薬	0.25mg 0.5mg	分 3 食直前(シュアポスト)	腎機能低下者においては慎重投与
SGLT-2 阻害薬	フォシーガ錠 多用途	5mg 10mg	5～10mg を 1 日 1 回	10mg の用途は注意
	ジャディアンス錠	10mg 25mg	1 日 1 回	

◆インスリン注射は外用薬を参照

【高尿酸血症薬】

	医薬品名	規格	用法	備考
XO 阻害薬	フェブキソスタット錠	10mg 20mg 40mg	1 日 1 回 薬価：5.9 円、10.7 円、19.4 円	
尿酸排泄促進剤	ユリス錠	0.5mg 1mg 25mg	維持量は通常 1 日 1 回 2mg	27.7 円、50.3 円 92.3 円
痛風発作改善薬	コルヒチン錠	0.5mg	痛風発作 1 日 3 ～ 4 mg を 1 日 6 ～ 8 回 予防 1 日 0.5 ～ 1 m g	

【泌尿器科用薬】

前立腺肥大症薬	タムスロシン OD 錠	0.1mg 0.2mg	1 日 1 回 12.4 円 20.5 円	腎機能影響なし
	シロドシン OD 錠 (ユリーフ®)	2mg 4mg 10.1 円 14.5 円	1 日 2 回朝夕食後	Ccr 5 0 以下は減量
	エブランチルカプセル	15mg 30mg 15.8 円 35.4 円	1 日 2 回	腎機能影響なし 神経因性膀胱に伴う 排尿困難・女性にも
β3 刺激薬	ベオーバ錠	50mg	1 日 1 回	152.7 円
過活動膀胱治療薬	ソリフェナシン OD 錠 (ベシケア®)	2.5mg 5mg 22.2 円 37.3 円	1 日 1 回 1 回 5mg	抗コリン作用有 Ccr 5 0 以下は減量
コリンエステラーゼ阻害薬	臭化ジスチクミン錠 (ウブレチド®)	5mg	1 日 5mg	腎機能影響なし

【解熱鎮痛薬】

地域薬局協議済

	医薬品名	規格	用法	備考
Nsaid s	カロナール錠	200mg 300mg 500mg	薬価：6.7円 7.0円 11.2円	重篤な腎障害には禁忌
	ロキソプロフェンNa錠	60mg	1日3回 9.8円	
	セレコキシブ錠	100mg 200mg	1日2回 6.1円 10.5円	
	トアラセット配合錠	非がん性慢性疼痛 1日4回 〈抜歯後疼痛〉1回2錠 max8錠/日		
神経障害性疼痛薬	プレガバリン OD 錠	25mg 75mg 150mg 12.9円 20.9円 31.0円	1日2回	
	コルヒチン錠	0.5mg	痛風発作 1日3～4mgを1日6～8回 予防 1日0.5～1mg	Ccr50以下は慎重投与
筋緊張緩和薬	エペリゾン錠	50mg	1日3回	
消炎薬	トラネキサム酸錠	250mg 500mg	1日3回	

【抗アレルギー薬】

H1 ブロッカー 日本フォーミュラ学会推奨	フェキソフェナジン錠	30mg 60mg 薬価：価格メーカーによる	1日2回	Ccr50～10：分1か2 Ccr10：分1
	レボセチリジン OD 錠	2.5mg 5mg	1日1回 就寝前	Ccr50～10：2.5mg
	セレスタミン配合錠		通常、成人には1回1～2錠を1日1～4回経口投与。 年齢、症状により適宜増減	
	モンテルカスト	5mg 10mg	1日1回	腎機能影響なし

【気管支拡張薬】

	テオドール錠	50mg 100mg 200mg	分 1～2 200～400mg	腎機能影響なし
β2 刺激薬	ツロブテロールテープで代用			

【ステロイド剤】

	プレドニゾロン錠	1mg 5mg	通常、成人にはプレドニゾロンとして1日5～60mgを1～4回に分割経口投与	
	デカドロン錠 (デキサメタゾン)	0.5mg 4mg	デキサメタゾンとして、通常成人1日0.5～8mgを1～4回に分割経口投与。 年齢、症状により適宜増減	

【感染症用薬】

地域薬局協議済

	医薬品名	規格	用法	備考
インフルエンザ薬	オセルタミビル	75mg 111.6 円	成人及び体重 37.5kg 以上の小児にはオセルタミビルとして 1 回 75mg を 1 日 2 回、5 日間経口投与	5 日間服用
抗ウイルス薬	バラシクロビル錠	500mg 76.7 円	〈単純疱疹〉 成人には 1 回 500mg を 1 日 2 回 〈帯状疱疹〉 成人には 1 回 1000mg を 1 日 3 回経口投与	
COVID19 治療薬	ラゲブリオ	18 歳以上の患者に 1 回 800mg を 1 日 2 回、5 日間 2164.9 円		併用禁忌なし

【感冒用薬】

総合感冒薬	PL 顆粒	1 g/包	通常、成人には 1 回 1g を 1 日 4 回	
-------	-------	-------	--------------------------	--

鎮咳薬	アスベリン錠	10mg 20mg 両方共に 9.4 円	10mg: 成人 6 ～ 12 錠/日 20mg: 成人 3 ～ 6 錠/日	
去痰薬	カルボシステイン錠	250mg 500mg	1 日 3 回	
消炎薬	トラネキサム酸	250mg 500mg	1 日 3 回	

【抗生物質】

セフェム系	セフカペンピボキシル錠	100mg	1日3回	
	セフトレキシム錠	100mg	1日3回	
マクロライド系	クラリスロマイシン錠	50mg 200mg	1日1又は2回	
ペニシリン系	サワシリンカプセル	250mg	1日3又は4回	
抗菌薬	レボフロキサシン錠	250mg 500mg	1日1回	

【鎮眩薬】

	ベタヒスチン錠	6mg	1回6～12mg 分3	脳循環改善
	アデホスコール顆粒	10%=100mg=1包	1回100mgを1日3回	

【片頭痛薬】

5-HT 受容体 作動薬	スマトリプタン 薬価：142.1 円	50mg	効果が不十分な場合には、2時間以上あけて追加投与可、また、50mg で効果不十分であった場合には、次回片頭痛発現時から100mg を経口投与可。ただし、1日の総投与量を200mg 以内とする	
	エレクトリプタン 薬価：132.8 円	20mg	効果が不十分な場合には、2時間以上あけて追加投与可、また、20mg で効果不十分であった場合には、次回片頭痛発現時から40mg を経口投与可。ただし、1日の総投与量を200mg 以内とする	半減期長い
Cach 遮断薬	ミグシス	5mg	1日2回	予防

【止血薬】

	カルバゾクロム スルホン酸 Na 錠	10mg 30mg	成人1日30～90mg 分3	先発：アドナ
--	-----------------------	-----------	----------------	--------

【甲状腺機能用薬】

機能低下症	チラーヂン S 錠	12.5 μg 25 μg 50 μg 75 μg 100 μg	1日1回	
機能亢進症	チウラジール錠	50mg	1日2～4回	
	メルカゾール錠	5mg	1日1～4回	

【抗てんかん薬】

地域薬局協議済

	バルプロ酸 NaSR 錠	100mg 200mg	〈各種てんかんおよびてんかんに伴う性格行動障害の治療、躁病および躁うつ病の躁状態の治療〉 通常 1 日量 400～1,200mg を 1 日 2～3 回 〈片頭痛発作の発症抑制〉 1 日量 400～800mg を 1 日 2～3 回
	カルバマゼピン錠	100mg 200mg	〈精神運動発作、てんかん性格及びてんかんに伴う精神障害、てんかんの痙攣発作：強直間代発作（全般痙攣発作、大発作）の場合〉 通常、成人には最初 1 日量 200～400mg を 1～2 回に分割経口投与し、至適効果が得られるまで（通常 1 日 600mg）徐々に増量する。症状により 1 日 1,200mg まで増量することができる。 小児に対しては、年齢、症状に応じて、通常 1 日 100～600mg を分割経口投与 〈躁病、躁うつ病の躁状態、統合失調症の興奮状態の場合〉 通常、成人には最初 1 日量 200～400mg を 1～2 回に分割経口投与し、至適効果が得られるまで（通常 1 日 600mg）徐々に増量する。症状により 1 日 1,200mg まで増量することができる。 〈三叉神経痛の場合〉 通常、成人には最初 1 日量 200～400mg からはじめ、通常 1 日 600mg までを分割経口投与するが、症状により 1 日 800mg まで増量することができる。小児に対しては、年齢、症状に応じて適宜減量する
	ゾニサミド錠	100mg	通常 1 日量 200～400mg まで漸増し、1～3 回
	レベチラセタム	250mg 500mg	通常、1 日 1000mg を 1 日 2 回
	ビムパット	50mg 100mg	通常、成人には 1 日 200mg 1 日 2 回 小児：通常、4 歳以上の小児に 1 日用量として 2mg/kg、 体重 30kg 未満の小児には 1 日 6mg/kg、体重 30kg 以上 50kg 未満の小児には 1 日 4mg/kg とする。いずれも 1 日 2 回
	ランドセン/ リボトリール	0.5m 1mg 2mg	通常成人、小児は、初回量 1 日 0.5～1mg を 1～3 回 以後、至適効果が得られるまで徐々に増量。通常、維持量は 1 日 2～6mg を 1～3 回に分けて経口投与 乳、幼児は、初回量クロナゼパムとして、1 日体重 1kg あたり 0.025mg を 1～3 回に分けて経口投与する

【認知症用薬】

	ドネペジル OD 錠	3mg 5mg 10mg	1 日 1 回	
--	------------	--------------	---------	--

【睡眠薬】

超短時間型	トリアゾラム錠	0.125mg 0.25mg		反跳性睡眠注意
短時間型	ブロチゾラム錠	0.25mg		
	エチゾラム錠	0.5mg 1mg		
中間型	ニトラゼパム錠	5mg 10mg		
非ベンゾジアゼピン系	ゾルピデム錠	5mg 10mg		
	エスゾピクロン錠	1mg 2mg 3mg		
オレキシン R 拮抗薬	デエビゴ錠	2.5mg 5mg 10mg		

【抗不安薬】

短時間型	クロチアゼパム錠	5mg		リーゼ
	エチゾラム錠	0.5mg 1mg		デパス
中間型	ブロマゼパム錠	1mg 2mg 5mg		レキソタン 筋弛緩強
	アルプラゾラム錠	0.4mg		ソラナックス
長時間型	ジアゼパム錠	2mg 5mg 10mg		筋弛緩強
	ランドセン錠	0.5mg 1mg 2mg		=リボトリール
超長時間型	ロフラゼパ酸エチル錠	1mg 2mg		メイラックス

【抗うつ薬】 リスト保留・・・個別性が高いことより

三環系	ノリトレン錠	10mg 25mg	1日2～3回	
四環系	テトラミド錠	10mg 30mg	通常は1日1回	
SSRI	パロキセチン錠	5mg 10mg 20mg	1日1回夕食後	適応で量が変化
	エスシタロプラム錠	10mg	1日1回夕食後	
	セルトラリン錠	25mg 50mg 100mg	1日1回	適応で量が変化
	フルボキサミン錠	25mg 50mg	1日2回	適応で量が変化
SNRI	デュロキセチン	20mg 30mg	1日1回 朝食後	
	イフェクサーSR	37.5mg 75mg	1日1回 食後	
	ミルナシブラン錠	12.5mg/15mg/25mg/50mg	1日2～3回	
SARI	トラゾドン錠	25 mg 50mg	1日1～数回	
セロトニン再 取込み阻害・ セロトニン受 容体調節剤	トリンテリックス錠	10mg 20mg	1日1回	
5-HTA 刺激薬	タンドスピロン	5 mg 10mg 20mg	通常は1日3回	セディール
NaSSA	ミルタザピン錠	15mg 30mg	1日1回就寝前	
気分安定化薬 (双極性障害 治療薬)	リーマス錠	100mg 200mg	1日2～3回	躁鬱 双方に効果 水分摂取重要
	バルプロ酸 Na	100mg 200mg		躁にのみ効果
	ラモトリギン錠	25mg 100mg	鬱にのみ効果	皮膚炎注意
	カルバマゼピン錠	100mg 200mg		リチウムがあわない患者に

【精神用薬】 リスト保留・・・個別性が高いことより

定型 抗精神病薬 (脳内でドーパミンのみ抑制)	コントミン錠	12.5mg/25mg/50mg/100mg		
	ヒルナミン錠	5mg 25mg 50mg		
	ハロペリドール錠	0.75mg/1mg/1.5mg/3mg		
	スルピリド錠	50mg 100mg		
	ピーゼットシー錠	2 mg 4mg 8mg		
	スピロピタン錠	0.25mg 1mg		
	ニューレプチル錠	5mg 10mg 25mg		
非定型 抗精神病薬	アリピプラゾール錠	3mg 6mg 12mg		
	リスペリドン錠	1 mg 2mg 3mg		パーキンソン症状注意
	クエチアピン錠	12.5mg 25mg 50mg 100mg		糖尿病禁忌
	オランザピン錠	2.5mg 5mg 100mg		糖尿病禁忌
	ペロスピロン錠	4mg 8mg		
	ブロナンセリン錠	4mg 8mg		
	インヴェガ	3mg 6mg 9mg		徐放錠
	レキサルティ	1mg 2mg		
	ラツーダ錠	20mg 40mg 80mg		クラリスロマイシン禁忌
	シクレスト舌下錠	5 mg 10mg		投与後 10分間飲食不可
	チアプリド錠	25mg 50mg	脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為、精神興奮、徘徊、せん妄の改善/特発性ジスキネジア及びパーキンソニズムに伴うジスキネジア	

【パーキンソン病治療薬】 リスト保留・・・個別性が高いことより

ドーパミン遊離促進薬	アマンタジン錠	50mg 100mg	1日 200mg 分2	ドーパミン放出促進
レポドパ賦活薬	ゾニサミド OD 錠	25mg 50mg	1日 1回 25mg	レポドパ生合成促進
ドーパミン R 作動薬	ブロモクリプチン錠	2.5mg	1日 2又は3回	ドーパミン受容体刺激
	カバサル錠	0.25mg	1日 1回	
	プラミペキソール錠	0.125mg 0.5mg	1日 2又は3回	
	レキップ CR 錠	2mg 8mg	1日 1回	
	ニュープロパッチ	2.25mg/4.5mg 9mg/13mg	1日 1枚	外用貼付薬
レポドパ+ベンセラシド	マドパー配合錠 L50		1日 1～3回	レポドパ代謝阻害
レポドパ+カルビドパ	メネシット/ネオドパストン	100mg 250mg	1日 3回	レポドパ代謝阻害
レポドパ+カルビドパ +エンタカボン	スタレボ配合錠	L50 L100	1日 1又は2回	レポドパ代謝阻害
COMT 阻害薬	コムタン錠(エンタカボン)	100mg	1日 1回 単独では用いない	レポドパ代謝阻害
選択的 MAO 阻害薬	セレギリン錠	2.5mg	1日 1～2回	中枢ドーパミン代謝阻害
抗コリン薬	アーテン錠 (トリヘキシフェニジル)	2mg	1日 3～4回	ドーパミン不足による Ach 量の調節
	ビペリデン錠	1mg	1日 2回	
	ヒベルナ糖衣錠	25mg	1日 25～200mg 1日 1～3回	
アデノシン A _{2A} R 拮抗薬	ノウリアスト錠	20mg	1日 1回	ドーパミン不足によるア デノシン量調節
ノルアドレナリン 補充薬	ドプス OD 錠	100mg 200mg	1日 1回又は3回	ドーパミン不足によるノ ルアドレナリン補充

【漢方薬】

地域薬局協議済

①ツムラ葛根湯	1包 2.5g	④ツムラ猪苓湯	1包 2.5g
①⑦ツムラ五苓散	1包 2.5g	④①ツムラ補中益気湯	1包 2.5g
①⑨ツムラ小青竜湯	1包 3g	④③ツムラ六君子湯	1包 2.5g
②⑦ツムラ麻黄湯	1包 2.5g	⑤④ツムラ抑肝散	1包 2.5g
②⑨ツムラ麦門冬湯	1包 3g	⑥⑧ツムラ芍薬甘草湯	1包 2.5g
③⑨ツムラ苓桂甘湯	1包 2.5g	100 ツムラ大建中湯	1包 2.5g
	1包 2.5g	127 ツムラ麻黄附子細辛湯	1包 2.5g

【小児用薬】 5kg 10kg 15kg 20kg 等体重別に予製するか？ シロップにするか？

アスベリン散	1歳未満 0.05～0.2g 1歳以上3歳未満 0.1～0.25g 3歳以上6歳未満 0.15～0.4g 成人 0.6～1.2g	
カルボシステイン DS	幼・小児に体重 kg 当たり 1回 10mg (本剤 0.02g) 1日3回経口投与	
レボセチリジン DS	1包 0.5g 分包品 6ヵ月以上1歳未満の小児には1回 0.25g を1日1回、 通常、1歳以上7歳未満の小児には1回 0.25g を1日2回、朝食 後及び就寝前に通常、7歳以上15歳未満の小児には1回 0.5g を 1日2回、朝食後及び就寝前	
プラシルカスト DS	1日2回 12kg以上18kg未満 0.5g 18kg以上25kg未満 0.7g 25kg以上35kg未満 1.0g 35kg以上45kg未満 1.4g	
テオフィリン DS 20%	小児にテオフィリンとして、1回 4～8mg/kg (本剤 20～ 40mg/kg) を、1日2回、朝及び就寝前に経口投与	
ミヤBM細粒	通常、成人1日 1.5～3g を3回に分割経口投与する。	
メトクロプラミド細粒	1日3回 食前 1日 0.38～0.53mg/kg	
ロペミン小児用細粒 0.05%	1包 0.2g 分包品 通常、小児に1日 0.02～0.04mg/kg (ロペミン小児用細粒 0.05% として 0.04～0.08g/kg) を2～3回に分割経口投与	
デカドロンエリキシル 0.01%	デキサメタゾンとして、通常成人1日 0.5～8mg を1～4回に 分割経口投与する。小児には1日 0.15～4mg を1～4回に分割 経口投与する。	

通電状態でない場合(電子秤量器が使用できない場合)において

アスベリンシロップ	1日3回 1歳未満：1～4mL/日 1歳以上3歳未満：2～5mL/日 3歳以上6歳未満：3～8mL/日 成人：12～24mL/日
カルボシステインシロップ	1日3回 1日量 0.6ml/kg 10kg：6ml/日 15kg：9ml/日
ザイザルシロップ	6ヶ月～1歳未満：1回 2.5mL 1日1回 1歳～7歳未満：1回 2.5mL 1日2回 7歳～15歳未満：1回 5mL (0.5錠) 1日2回 15歳以上：1回 5mL (1錠) 1日1回就寝前

【抗生物質 小児用薬】

地域薬局協議済

	ワイドシリン細粒 200mg	1 日 20～40mg（力価）/ kg を 3～4 回に分割経口投与	
	クラリスロマイシン DS	小児には 1 日あたり 10～15mg（力価）/kg を 2～3 回に分けて経口投与する。 10kg：1～1.5 g/日	
	セフゾン細粒小児用 10%	1 日量 9～18mg/kg 3 回に分割して経口投与する	
	セフカペンピボキシル		

【ビタミン剤、Ca 剤等その他】

	アルファカルシドール錠	0.5mg 1mg	1 日 1 回	
	アレンドロン酸錠	5mg 35mg	1 週間に 1 回	日本フォーミュラリー学会推奨
	アスパラカリウム錠	300mg		
	ニセルゴリン錠	5mg		
	メコバラミン錠	500μg		

【婦人科用薬】

PMS・生理痛薬	フリウエルLD／ULD	1 日 1 錠を毎日一定の時刻に 21 日間経口投与し、その後 7 日間休薬する。以上 28 日間を投与 1 周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29 日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。	血栓症注意：喫煙者 前兆伴う偏頭痛患者禁忌
	ヤーズ／ヤーズフレックス	1 日 1 錠を毎日一定の時刻に定められた順に従って（淡赤色錠から開始する）28 日間連続経口投与する。以上 28 日間を投与 1 周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29 日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。	
切迫早産薬	ウテメリン/ズファジラン(β2 受容体刺激 子宮平滑筋弛緩)		

●外用薬

【貼付剤】

地域薬局協議済

	医薬品名	規格	用法	備考
鎮痛・消炎剤	ロキソプロフェンテープ	50mg 100mg	1日1枚	12.3円 17.1円
	セルタッチパップ	70mg	1日2枚	17.1円
虚血性心疾患用貼付薬	硝酸イソソルビドテープ	40mg	1日1枚	
気管支拡張薬	ツロブテロールテープ	0.5mg 1mg 2mg	1日1枚	

【塗り薬】

鎮痛・消炎剤	ジクロフェナク Na ゲル	25g/本		
	フェルビナクスチック軟膏	40g/本		
外用ステロイド剤	ジフルプレドナート軟膏 (マイザー軟膏)	5g/本		
	デルモゾール G 軟膏	5g/本		
	ヒドロコルチゾン酪酸エステル軟膏 (ロコイド軟膏)	5g/本		
	オイラックスクリーム	10g/本		
外用非ステロイド剤	アズノール軟膏	25g/本		
抗ウイルス剤	ビダラビン軟膏	5g/本		
口腔用軟膏	デキサメタゾン口腔用軟膏	5g/本		
眼科用軟膏	ネオメドロール EE 軟膏	5g/本		
抗真菌薬外用薬	ルリコンクリーム	10g/本	1日1回	
	ルコナック爪外用薬	10g/本	1日1回	クレナフィンは倍の薬価
抗生物質軟膏	ゲンタマイシン軟膏	10g/本		
痔疾患用軟膏	強力ポステリザン軟膏	2g/本		
血行促進・皮膚保湿剤	ヘパリン類似物質油性クリーム	25g/本	1日1～数回	

【座薬】

解熱鎮痛用剤	アルピニー座薬	50mg 100mg 200mg	10kg以上は1回100mg 冷所保管
消化管運動調節用剤	ナウゼリン坐剤	10mg 30mg 60mg	3歳以下は10mg 常温保管
小児用痙攣薬坐剤	ダイアップ坐剤 常温保管	4mg 6mg 10mg	1回0.4～0.5mg/kgを1日1～2回直腸内に挿入する。なお、症状に応じて適宜増減、1日1mg/kgを超えないようにする。
便秘用座薬	新レシカルボン坐剤		冷所保管

テレミンソフト坐薬は常温保管

【点鼻薬】

フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液 (=アラミスト点鼻液)	27.5μg	56噴霧用 112噴霧用	1日1回
--------------------------------------	--------	--------------	------

【吸入薬】

地域薬局協議済

	医薬品名	規格	用法	備考
ステロイド	フルタイド	50 μ g 100 μ g 120 吸入、60 吸入	1 日 2 回	
ステロイド・ β 2	ブテホル吸入粉末剤 (=シムビコート)	30 吸入 758.1 円／個 60 吸入 1364.6 円／個	1 日 2 回 1 回 2 吸入 発作時：1 吸入後治まらない 場合 1 吸入追加 通常 8 吸入／日まで MAX： 1 2 吸入／日	空打ち 4 回
	アドエア	50mg 250mg 500mg	1 日 2 回 1 回 1 吸入	
ステロイド・ β 2	レルベア	30 吸入	1 日 1 回 1 吸入	
ステロイド・ β 2	フルティフォーム	50 μ g 125 μ g 56 吸入、120 吸入	1 日 2 回 成人 1 回 2 吸入 小児 50 を 1 回 2 吸入	
ステロイド・ β 2 ・臭化物	テリルジー	30 吸入	1 日 1 回 1 吸入	
発作時用吸入薬	メプチンエアー	成人 1 回 2 吸入、小児 1 回 1 吸入 1 日 4 回（原則として成人 8 吸入、小児 4 吸入） まで		

【点眼薬】

抗菌薬点眼液	レボフロキサシン点眼液	1.5% 5 m l／本	1 日 3 回	
抗炎症点眼液	プラノプロフェン点眼液	5 m l／本		
角結膜上皮障害用 点眼液	ヒアロンサン点眼液 0.1、0.3	5 m l／本	1 日 5 ～6 回	
緑内障治療点眼液				
PG 製剤	タプロス点眼液	0.0015% 2.5ml／本	1 日 1 回	
炭酸脱水素酵素	トルソプト点眼液	0.5% 1% 5 m l／本	1 日 3 回	
α 2 刺激剤	アイファガン点眼液	0.1% 5 m l／本	1 日 2 回	
緑内障配合点眼薬	タプコム点眼液 (タフルプロスト・チモプトール)	5 m l／本	1 日 1 回	2068.5 円／本
抗アレルギー薬点眼液				
	オロパタジン点眼液	5ml／本	1 日 4 回	薬価：235 円／本

【含嗽薬】

アズノールうがい液	5ml 10ml		
ネオステリンググリーンうがい液 0.2%	40ml		

【注射薬】

持続型	インスリン グラルギン BS（遺伝子組換え）	補足；レベミル 1 日 2 回、トレシーバ注射時間不問
【日本フォーミュラリ学会推奨】 持効型インスリンは糖尿病診療ガイドライン 2019 など国内外のガイドラインにおいて使い分けが明記されていない。本剤は、インスリン グラルギン（先行品）が多くの臨床試験で用いられ ており、エビデンスが集積していること、高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 に記載されている高齢糖尿病患者における検討では、インスリン デグルデクの重症低血糖の発現はインスリン グラルギンと同様だったと報告されていること、臨床試験で先行バイオ医薬品と同等性が認められたバイオシミラーも選択できることが特徴として挙げられる。インスリン グラルギン BS は有効性・安全性において他剤と差がなく、先行品より安価である。		
インスリン デグルデク（トレシーバ®注フレックスタッチ）、インスリン デテミル（レベミル®注フレックスペン） 本剤（＝トレシーバ）は、小児用量が設定されていること、作用持続時間が長く、低血糖の発現がインスリン グラルギンよりも少ないことが報告されていることから、小児やインスリン グラルギンでコントロール不良な患者に使用する。開封後に最長 8 週間まで室温で保存できるため、災害等の理由により冷所で保管できない場合にも利便性が高いことが特徴として挙げられる。 インスリン デテミル（レベミル）は、妊婦に対するエビデンスを有し、医薬品の胎児に対するリスク分類基準のオーストラリア分類で唯一 A とされていることが特徴として挙げられることから、妊婦に使用する場合のオプションとする。		

速攻型	日本フォーミュラリ学会推奨	
	インスリン リスプロ BS 注（遺伝子組換え）	インスリン アスパルト BS 注（遺伝子組換え）
	超速効型インスリンは糖尿病診療ガイドライン 2019 など国内外のガイドラインにおいて使い分けが明記されていない。また、インスリン リスプロ、インスリン アスパルトの有効性・安全性の違いを示した報告はない。本剤は、小児適応を有すること、「妊娠糖尿病」に対する使用が診療報酬支払基金の bmm、審査上認められていること、医薬品の胎児に対するリスク分類基準のオーストラリア分類で A とされていること、臨床試験で先行バイオ医薬品と同等性が認められたバイオ後続品であることが特徴として挙げられる。インスリン リスプロは有効性・安全性において他剤と差がなく、先行品より安価である。	本剤は、小児適応を有すること、「妊娠糖尿病」に対する使用が診療報酬支払基金の審査上認められていること、医薬品の胎児に対するリスク分類基準のオーストラリア分類で A とされていること、臨床試験で先行バイオ医薬品と同等性が認められたバイオ後続品であることが特徴として挙げられる。インスリン アスパルト BS はインスリン リスプロの先行品および BS のいずれよりも薬価が高いことから、同一成分の先行品からの切替は推奨できるが、新規に投与する場合はインスリンリスプロ製剤の処方が推奨される

GLP-1 製剤	トリルシティ 0.75 皮下注アテオス	週 1 回投与、同一曜日に投与させる
投与を忘れた場合は、次回投与までの期間が 3 日間（72 時間）以上であれば、気づいた時点で直ちに投与し、その後はあらかじめ定めた曜日に投与すること。次回投与までの期間が 3 日間（72 時間）未満であれば投与せず、次のあらかじめ定めた曜日に投与すること。なお、週 1 回投与の曜日を変更する必要がある場合は、前回投与から少なくとも 3 日間（72 時間）以上間隔を空けること。		

エピペン	0.15mg 0.3mg	登録医による処方／同意書
通常、成人には 0.3mg 製剤を使用し、小児には体重に応じて 0.15mg 製剤又は 0.3mg 製剤を使用すること。体重 15kg 未満の患者に本剤 0.15mg 製剤、体重 30kg 未満の患者に本剤 0.3mg 製剤を投与すると、過量となるおそれがあるので、副作用の発現等に十分な注意が必要であり、本剤以外のアドレナリン製剤の使用についても考慮する必要があるが、0.01mg/kg を超える用量を投与することの必要性については、救命を最優先し、患者ごとの症状を観察した上で慎重に判断すること。		